

山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi
Veterinary Medical Association

第 765 号 令和 7 年 2 月

目次

○第42回日本獣医師会獣医学術学会年次大会出席報告（会長理事・副会長理事）	1
○第2回小動物講習会のご案内	1
○愛玩動物におけるオンライン診療の適切な実施に関する指針について（山口県畜産振興課）	4
○リレー随筆（岩柳支部 田村英則先生）	5
○マラソンの相棒（山口支部 福岡 恒先生）	6
○感謝（宇部支部 熊谷亮之先生）	7
○令和6年度毒物劇物危害防止標語入選作品	8
○事務局だより	8
○狂犬病予防啓発ポスター（山口県獣医師会）	9
○狂犬病予防啓発ポスター（厚生労働省）	10

第42回日本獣医師会獣医学術学会年次大会出席報告

会長理事 田 中 尚 秋

令和7年1月24日(金)から26日(日)までの3日間、仙台国際センター(宮城県)において開催された第42回日本獣医師会獣医学術学会年次大会(令和6年度)に白永伸行副会長と共に出席しましたので、その概要を報告します。

まず、初日の午後1時から日本産業動物獣医学会、日本小動物獣医学会、日本獣医公衆衛生学会各分野の地区学会長賞等受賞講演や教育講演から開始され、午後1時30分からは、他会場で(公社)日本獣医師

会(以下「日獣」)と日本小動物獣医学会合同シンポジウム「令和6年度能登半島地震に係る動物救護対策と全国各地における災害対策への取組み」が開始されましたが、午後2時から日本獣医師連盟の通常総会に出席しなければならず、後ろ髪を引かれる思いで中座してしまいました。獣医師連盟の村中志朗委員長は、当該シンポジウムの座長役であったのに、何故同時間帯に総会を設定されたのか全く理解に苦しむもので、日獣連盟事務局あて次回以降メイ

お知らせ

令和6年度第2回小動物講習会のご案内

下記のとおり開催します。皆様の参加をお待ちしています。

- 日 時：令和7年2月23日(日・祝日) 10時～16時
- 会 場：防長苑2階 孔雀の間(山口市熊野町)
- 講 師：酪農学園大学 伴侶動物外科 運動器科/循環器診療科長
教授 井坂光宏 先生
- 演 題：「心臓の内科と外科」
- 参加申込：令和7年2月13日(木)までに、本会事務局に申し込んでください。
- 参加費：本会会員は無料ですが、それ以外は次のとおり参加費をいただきます。
学生：千円、愛玩動物看護師等：2千円、その他(一般)：3千円
- ◆昼休憩の時間にランチョンセミナーを開催します。
テーマ：血液によるがん検査 Nu.Q Vet Cancer Testの活用
講 師：富士フイルムVETシステムズ株式会社 新規事業推進部
学術担当獣医師 須藤大輔 先生

ン事業と重ならないように留意していただくよう申し入れをしたところです。

総会終了後、再び、小動物地区学会会長賞受賞講演会場に移動し、中国地区学会で地区学会会長賞を受賞されたアミカペットクリニックの網本宏和先生（宇部支部）の「**2歳齢以下130頭の小型犬における歯科X線検査による歯の解剖学的異常**」を聴講することができました。ご講演内容、発表態度、質疑応答に係る受け答え等、すべて申し分のない出来栄えだったと感じましたが、惜しくも日本獣医師会獣医学術賞の受賞とはなりません。先生のご労苦、素晴らしいご講演に深く敬意を表します。

能登半島地震に係るシンポジウムは、最後の藤本順介先生（日獣）による「令和6年度能登半島地震への対応から得られた今後の課題」を聴講することができ、たいへん参考になりました。まず、「情報の鮮度について」：伝えられる情報がいつのものか把握する必要があること、「情報の発信について」：情報発信の手段や頻度、内容について検討する必要があること、「自治体と獣医師会の連携について」：平時からそれぞれの立場や動き方が異なることを理解し、役割を分担する等調整を図っておくこと<各種の調整を行う役割が必要>、「人材派遣について」：派遣要員が特定の人材に偏らないよう留意・検討すべき<人材育成>、等。なお、総合討論会での「シェルターはできるだけ作らないほうが良い」とのご意見には驚きましたが、説明を伺って納得できました〔シェルターを作るより、対応可能な動物病院で、分担して預かっていただく方が各先生方の負担が軽くなる（出張して診に行かなくても良いので、時間の無駄がない、診療機器等も充実しているので、診断・管理もしやすい、飼主さんの信頼度も増す、等）、あるいは、運営費用等、高額な経費が必要となる、等〕。また、東日本大震災や熊本地震、能登半島地震等での対応で経験ご豊富な平井潤子先生（日獣・（公社）東京都獣医師会）の「**まずは、生き残る備え（自身、家族、スタッフ）を！**」というお言葉は深く心に残りました。このシンポジウムで得た知識は、我々の今後の災害対策に活かしていきたいと思えます。

2日目は、各種シンポジウムと教育講演、獣医学術賞の発表と表彰式等があり、さらに、今回、第1回目の農場管理認定獣医師認定試験が行われたことは特筆すべきことだと思えます。わが国で初めての農場管理認定獣医師が誕生することになり、豚熱や口蹄疫の発生防止等にご尽力いただくことを大い

に期待いたします。

午後6時から多くのご来賓列席のもと恒例の歓迎交流会が催され、久しぶりに全国の会員の皆様等と交流を深められたことは嬉しい限りでした。

産業動物分野では、鳥インフルエンザ、牛ウイルス性下痢症（BVD）、豚熱、農業被害をもたらす野生動物、遠隔診療など、小動物分野では下痢、目の炎症、乳腺腫瘍、尿石症など、公衆衛生分野ではレプトスピラ症、トキソプラズマ症、近年多発しているクマによる人身事故など、いずれの分野でも近年問題・話題となっているテーマが取り上げられていたことは評価されると思います。市民公開シンポジウムとして「犬との共生が人にもたらす健康効果～ワンヘルスの視点から見る犬と人の関係～」、「すべての獣医師が活躍できる未来ある職場づくりのために」など、獣医師以外の方の参加も含めた企画がありましたが、残念ながら関係者以外の出席は少なかつたようです。

今回は天候にも恵まれ、会場は伊達政宗公騎馬像のある仙台城跡（青葉城公園）の麓でJR仙台駅から仙台国際センター駅まで地下鉄で5分、歩いても約30分と大変利便性の良い場所にありましたが、案内看板・人の配置等がなく、最初は少し戸惑いました。また、各会場が広すぎたためか参加人数が少なく感じられたこと、ご講演予定であった農林水産省の先生方が急遽ご欠席になられたこと、聴講したいご講演の時間帯がいくつか重なっており、部分的な聴講となってしまったことは残念でした。それでも、本年度の学会も内容的にも例年同様充実して担当された先生方に深く敬意を表し、感謝申し上げたいと存じます。



第42回日本獣医師会獣医学術学会年次大会出席報告

副会長理事 白 永 伸 行

この1月24日より3日間、宮城県仙台市仙台国際センターにおいて開催された令和6年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会が開催され、田中尚秋会長とともに出席してまいりました。

田中会長と私とで、参加するプログラムを分担しましたので、私が聴講した公演やシンポジウムの内容を報告します。

1月26日(日)に行われた「動物のいのちに対する市民意識を考える」という演題がありました。まず帝京大学佐伯潤先生の「動物の致死処置をめぐる現状と課題」という講演では、NHKをはじめ多くのメディアに登場する佐伯先生の動物福祉に関する活動が獣医師として命をもらってきたすべての動物たちに対して彼らの命を無駄にしたくない、動物たちの感謝が原動力となっているとのことでした。家庭動物では高度化と終末期への対応や動物愛護管理行政での殺処分問題、畜産動物の国際的なアニマルウェルフェアの流れや感染症対策、実験動物の動物福祉と並行した社会認知、展示動物の安楽死、野生動物の保護と駆除の問題、これらを社会倫理と関連させた広範囲な議論の必要性を訴えていました。

次に大阪府開業の桑原岳先生が小動物開業の現場からペットの致死処置の飼い主やスタッフを交えて模索するさまざまなケースを紹介しました。

最後に成蹊大学法学部打越綾子教授より「以下のような場合に動物の命を断つことを許容できますか」という膨大な小動物臨床獣医師も含めた市民アンケートの結果（年次大会抄録に結果掲載）を概説して動物の致死処置の課題や社会認知度そして重要性を熱く披露していただいた。

質疑では小生が「致死処置と宗教観の観点」「ガイドラインやコンセンサス」の2点を尋ねると、演者は皆これから熟成していく1歩が今日のシンポジウムであったと述べていた。

次に学校動物飼育支援対策検討委員会拡大に参加しました。第1部の概説では處愛美委員長による「地方獣医師会における学校動物飼育支援対策事業に関するアンケート調査結果」の説明を拝聴しました。

山口県獣医師会は学校飼育動物に関する事業を実施しているが、取り組みのない地方会の理由として

は学校の飼育動物減少や学校の要望、教育委員会の接点、予算のなさをあげており、また学校飼育動物支援に公衆衛生獣医師の参加を薦める方もいたり、全国さまざまな事情の異なりがあると思われた。

次に大門由美子副委員長によるがっこう動物新聞の活用法を解説しでは、がっこう動物新聞は学校と獣医師を繋ぐ話題作りの架け橋的な役割があるとのことでした。当会では、動物病院、市町、市町教育委員会、全ての小学校・特別支援学校に配布しています。これを大いに利用すべきと思った。

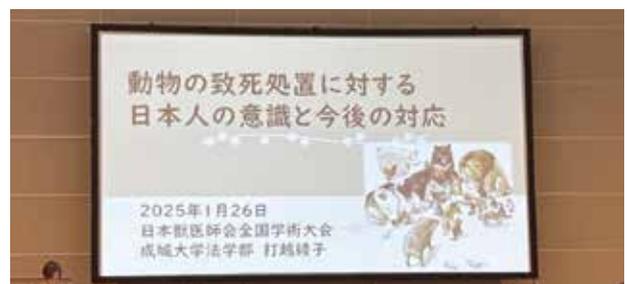
また地方会における支援取組の事例紹介で京都市獣医師会は冬季夏季の学校飼育動物の獣医師会会員による預かり事例として粘り強い交渉やマスコミの注目度などの説明がありました。

岡山県はモルモットの学校への提供とともに学校動物飼育支援のアプローチを披露していただいた。

西東京市は中川清志東京都獣医師会副会長による政治行政を交えた支援づくりを解説していました。

全てを聴講して山口県もサポートすることの大切さは認識しているけどどこから手をつければ事業が発展するのか？という状態と個人的に考えました。しかしよく調べるとそれなりの事業は行なっているので、今回演題に立った地方会では一つにアピールが上手であるからこそ認知性が高く周囲を巻き込み協力を得やすくして欲しいと思った。同時にこれまでのノウハウなどは地道な継続努力があってこそ思えるからこそ、山口県獣医師会も現状を点検して皆さんに知ってもらえるようにアナウンスの仕方など、これでいいのかと考える機会を設けてもいいと考えました。

写真は動物致死について成蹊大学打越教授の社会学の見地からの講演。演者は4匹の猫と暮らす熱心な飼い主でもあるとのこと。



愛玩動物におけるオンライン診療の適切な実施に関する指針について

山口県農林水産部畜産振興課

デジタル技術を活用した社会生活の変革や新たなサービスが創出される中で、愛玩動物の獣医療においても、飼育者の利便性向上や適切な獣医療への迅速なアクセス向上の観点から、オンライン診療のニーズはますます高まることが想定されます。

愛玩動物においても適切なオンライン診療の実施を促進する観点から、愛玩動物におけるオンライン診療に関して、不適切な実施によりその推進を阻害することのないように、農林水産省は令和6年12月に愛玩動物におけるオンライン診療の適切な実施に関する指針を策定しました。

愛玩動物におけるオンライン診療の適切な実施に関する指針の概要

指針の目的及び位置付け

- 獣医療への迅速なアクセス向上の観点から、愛玩動物診療におけるオンライン診療のニーズの高まりが想定。
- 飼育者の利便性向上等の観点から、オンライン診療の積極的かつ適切な活用を推進するための指針を策定。
- 指針は基本的な考え方（Ⅰ）と具体的適用（Ⅱ）から構成。

Ⅰ 基本的な考え方



Ⅱ 具体的適用

- 初診からのオンライン診療は、一部の場合を除き、原則として「かかりつけの獣医師」が行うこと。
- オンライン診療であっても、対面診療と同様に獣医師法、獣医療法その他の関係法令に規定される獣医師の任務や職責を果たす必要。

<p>1 初診は原則「かかりつけ」</p> <p>原則 かかりつけの獣医師</p> <p>日頃より対面で受診しているなど直接的な信頼関係があり既往歴や予病情報、健康診断結果等を把握している獣医師</p>	<p>2 1の「例外」</p> <p>例外 以下を満たす必要</p> <p>① かかりつけの獣医師が対応できず飼育者から依頼があった場合 ② 診療前相談をするなどして、オンライン診療が実施可能な判断 ③ 診療前相談で得た情報は診療簿に記録 等</p>	<p>3 双方の合意に基づいた診療</p>	<p>4 対面診療を行う体制の整備</p> <p>当施設や環境に適合するため、適やかにアクセスできる診療場所において対面診療を行う体制を整備</p>
<p>5 医薬品の適正使用</p> <p>医薬品の管理、投与方法、副作用等に関する指導の実施</p> <p>特に安全管理が必要な医薬品 処方箋</p>	<p>6 初診における医薬品の適正使用</p> <p>獣医師の特別の指導が必要な医薬品 処方箋</p> <p>安全性や有効性が評価されていない医薬品 処方箋</p> <p>初診における処方日数は7日上限</p>	<p>7 診療施設への所属問合せ先の明記</p> <p>〇×動物病院 〇×獣医師 TEL: ... Address: ...</p>	<p>8 ネットワーク環境の確保・リアルタイムな診療</p> <p>LIVE</p>

詳細は農林水産省HPへ



詳細は農林水産省HP (https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/zyui/pet_telehealth.html) をご覧ください。

リレー随筆

岩柳支部 田村 英 則

(山口県農業共済組合 東部地区家畜診療所)

岡山先生あと5年か～ 早いものですね☺
私も今年の春で定年満2年を迎えます。

どのような形態で働くか悩んだ末、再雇用を受けずアルバイトで2年間働いています。収入は確かに減りボーナスもなく一抹の寂しさが無いわけではありません。旅行などに行った月はあまりにも少ない給料に妻が悲鳴を上げます。出かけたんだから仕方ないだろう、とたしなめつつ生活しています。相対としては夫婦二人で食べていけています。現役の時に比べて自由な時間も増え、今のところこの選択で良かったと思っています。

しかし、最近では初任給も上がり物価も上がり、お金の価値は下がり、平成の貯蓄感覚では老後の生活をカバーできないとか、介護崩壊が起きるなどなど不安要素は満載です。とは言え、将来どうなるかに関しては考えてもキリがないので、今ある若さを満喫しようと思う日々です。

仕事としては山口県東部に於て継続して大動物の診療に携わっているのですが、定年退職したという大きな実感はありません。それでも、休みは確かに多くなっています。

現役の頃、特に若い時分は牛の頭数も多く昼夜無い診療で家族と話す暇もない日々を思い返すと、今は妻と出かけたり、畑仕事を共にしたりする時間も取れるようになりました。それで、つい子供が小さい頃にもう少しこんな時間が取れたら良かったなあ、と思うことがあります。

今は◎◎ハラという言葉をよく耳にし、多くの方がストレス性の病気を抱え、日本が人口減少に陥るのしかたないんじゃないかと思うこともあります。適度な時間がある生活をしてみて、現役の方々にも充実した仕事をしつつも、もっとゆとりある環境が整うと良いなあと思うばかりです。

さて、昨年ハンガリーに行く機会がありました。出かける頃には少し円高になっていたらしいなと思いましたが、円安はどんどん進み旅行を取りやめたい気分でした。でも、ハンガリーの物価の安さに助けられました。印象としては1～2割、ものによっては3割安でした。

ハンガリーはウクライナの隣国でウクライナからの避難者もおられ、レストランによっては内装がウクライナの国旗色をしているところもありました。ソ連から独立して随分になるものの、そうした歴史からでしょうか、控えめな少し日本人のようなシャイな方が多くおられる印象でした。7月に行きましたが、気温は日本のポカポカ陽気の春といった感じで風は爽やかで、日陰に入ると半袖に一枚薄手の物を羽織っても良いかなという感じでした。郊外はウクライナ同様広大な面積がひまわり畑でした(写真)。夏に出かけたので満開でした。ところが、滞在期間の半ばでコロナに感染し残りはひたすらホテルで療養してなんとか予定通り帰国しました。

添付した写真はハンガリー固有種の灰色牛です。感染前出かけた先で出会いました。この牛は肉牛で、かつて1000キロ以上離れた西ヨーロッパの市場まで

群ごと移動して売られていたそうです。それで、この牛はハンガリーの経済を大きく支えた大事な輸出品でもあったそうです。会ってみて、比較的穏やかな牛でした。顔も可愛かったです。

今後もしばらくバイトの身の上で、公私共に充実した日々を送れるよう邁進したいと思っています。

次回は、最初〇型と間違えた西部家保の直井英明先生をお願いします。



「マラソンの相棒」

山口支部 福岡 恒

(山口農林水産事務所畜産部)

中部家畜保健衛生所の福岡です。

寒い日々が続いておりますが、皆さんどのようにお過ごしでしょうか？

山口支部からの投稿ということで、業務内容であるウイルス検査か趣味であるマラソンネタで考えておりましたが、マラソンシーズンでもあるので後者について投稿しました。マラソンネタであれば、色々と書けそうですが長くなりますので今回は比較的イメージしやすいシューズとウェアに絞っています。

《マラソンシューズについて》

一昔前は駅伝やマラソンにおけるレースシューズはソールが薄い、いわゆる薄底シューズが主流でした。2019年以降は見た目や感覚でソールが厚い「厚底ランニングシューズ」に置き換わってきました。厚底シューズは公認ロードレースにおいては記録が認められるシューズの厚さが40mm以内と世界陸連の規定により定められています。厚底シューズはカーボンプレートがソールに埋め込まれ、反発力と推進力が得られること、厚みがあるのにさほど重量がないこと、厚みによるクッション性が高く、着地時の衝撃を緩和してくれることから多くのランナーが愛用しています。なお、足には優しいシューズですが、値段は概ね20,000～40,000円とお財布的には優しくないです。シューズが走る訳ではないので、個人が努力した上での結果ですが、厚底シューズ登場以降、ランニング効率が上がり、ロードレース等で多くの



トラック競技用シューズ（上）厚底シューズ（下）
靴底の厚さはトラック競技で20mm以内、ロードレースで40mm以内と規定されている

新記録が樹立されています。

私も強度の高い練習や大会時にはレース用の厚底シューズを利用し、スピードが出せるがダメージが比較的少ないというシューズ恩恵をひしひしと感じております。因みにシューズは練習内容（ジョギング用、中強度・高強度用、トラック競技用等）によって使い分けしており、年明けにレース用の厚底シューズを新調してしまいました。

《ウェア（タイツ）について》

次にランニングタイツについて、ご紹介します。以前はランパン、ランシャツスタイルが主流でしたが、近年はハーフタイツの着用率が増えています。ランニングタイツは伸びにくい生地を股関節や腰に配置することでテーピングに近い効果があります。また、タイツによる適度な着圧により体幹が安定し、フォームの維持に役立つこと、着地時の筋肉のブレを抑えられるといったメリットがあります。個人的に長い距離を走る時はランパンと比較してタイツを履いた時の方がブレ軽減により疲労蓄積を抑えられると実感しており、写真のように大腿部の筋肉に沿ってテーピングが編み込まれた商品を愛用しております。



愛用しているハーフタイツ（表裏）
前ももにテーピング機能あり

今年のニューイヤー駅伝や箱根駅伝でも多くの選手が各メーカーの厚底シューズやハーフタイツを着用していました。まだまだ国内ではマラソン大会等が開催予定ですので、テレビ観戦の時はシューズや

ウェアにも着目してみてはいかがでしょうか。

最後に……。仕事をしながらタイムを更新するのは中々困難ですが、山口県庁歴代記録（2時間22分20秒）まで、あと36秒に迫る記録を出せているので、2025年はマラソンアイテムも活用しながら、県庁歴代記録更新に挑戦したいと思います。

《事務局追記》

福岡先生は、下関海峡マラソン2024マラソン男子の部で、3位に入賞しておられます。



2024年下関海響マラソン
県庁所属の総合入賞メンバーと

感 謝

宇部支部 熊谷 堯之

（くまがいペットクリニック）

2021年1月に山口県宇部市にて新規開院したくまがいペットクリニック獣医師の熊谷堯之（くまがい たかゆき）と申します。多くの方がご覧になるこの山口県獣医師会報にてこのような形で執筆させていただくのは大変恐縮であり、慣れない執筆にて見苦しい箇所もあると思いますが、お付き合いいただければと思います。

新規動物病院開業から約4年間が経過し、カルテ数も少しずつですが増加してきており、動物病院としての経営も安定してきました。その中で常々思うこととしては、やはり獣医師ひとりで一動物病院を守ることの大変さでした。日常の診療の中で、治療への苦慮、患者様からのクレーム対応、従業員の管理...と苦勞を挙げればキリはなく、自身の精神的な健常を保つのがやっとの時も多々あります。

開業から現在まで、体力的に可能な範囲で病院を開けてきました。当初に比べると、色々な意味で余裕が生まれてきたのもあり、家族との時間も少しずつですが増やせるようになってきました。自身が父親になるまで、あまり信じていませんでしたが、精神的・肉体的にくたびれて帰っても、『おかえり、パパ〜！』の子供たちの声で悪いもの全てが吹き飛びます。自分はこの子たちに生かされているのだな、といつもつくづく感じます。そんな自分を支えてくれている家族へのお返しに、今年中にディズニーランド旅行を現在計画中です。パパ、頑張って働いて

稼いでいきます。笑

最後に、もう一つだけお伝えしたいこと。これだけ膨大な動物病院の業務を、今まで何十年とやってのけている獣医師会の諸先輩方には尊敬の念を抱かざるを得ません。そして、特に宇部支部の諸先輩方は、飲み会の席でも、新米の自分をたいへん可愛がってくださり、開業獣医師としてのアドバイスを多くの視点からご教示くださいます。それが自身にとって、どれほど精神的な支えになっているかはかり知れません。この場をお借りして、皆様には心から感謝申し上げます。まだまだ若輩者ではございますが、今後ともお力添えのほどよろしく願いいたします。



令和6年度毒物劇物危害防止標語入選作品

最優秀賞

まあいいか ちょっとの油断が大事故へ 意識を見直しゼロ災害

東ソー株式会社 南陽事業所 南野 雄平

優秀賞

「危ないぞ」注意するのも思いやり 正しい作業で無災害

東ソー株式会社 南陽事業所 野津 高志

怖いのは 自信過剰なあなたです 初心に戻り 慎重作業で安全確保

東ソー株式会社 南陽事業所 松浦 仁一

佳作

近道行為をしてないか 正しい手順と正しい保管 きっちり守る安全作業

日本製紙株式会社 岩国工場 干潟 知弘

過信せず 念には念を 適切な手順で扱う 毒劇物

東ソー株式会社 南陽事業所 棚田 哲生

些細な見逃し 大惨事 5感を高めて ゼロ災害

東ソー株式会社 南陽事業所 真鍋 仁

今後の主な行事(予定)

- 2月1日 ・仮事務所・保管倉庫 荷物運搬（県獣会館）
- 2月6日 ・第11回山口県獣医師会館検討会議（県獣会館）
- 2月7日 ・山口県動物由来感染症情報関連体制整備検討会議（県庁）
- 2月13日 ・令和6年度馬飼養衛生管理技術地方講習会（山口グランドホテル）
- 2月14日 ・山口県家畜保健衛生業績発表会（県庁）
- 2月16日 ・山口県獣医師会館竣工式（小郡ふれあいセンター）
- 2月20日 ・第2回支部長会議（県獣会館）
- 2月23日 ・第2回小動物講習会（防長苑）
- 3月13日 ・動物慰霊祭（県動物愛護センター）
- 3月13日 ・第4回理事会（県獣会館）

事務局だより

- 1月23日 ・会報編集委員会
- 1月24日～26日 ・日本獣医師会獣医学術学会年次大会（仙台市）
- 1月31日 ・第8回獣医学教育改革推進連携協議会（山口大学）
- 16日 ・事業推進会議

次回編集委員会 2月25日(火) 13:30～

山口県獣医師会会報 第765号 令和7年2月10日（毎月1回発行）

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)

電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554

e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 豊川 剛

発行責任者 田中 尚秋

印刷 コロニー印刷

狂犬病予防注射は お済みですか



狂犬病の予防注射は
毎年1回

犬の登録は生涯1回

アニメーション動画
明治アニマルヘルス(株)提供



狂犬病は、犬だけでなく、人にもうつる病気です。
発症した場合、**ほぼ100パーセント死に至ります。**
毎年愛犬に予防注射を受けさせましょう！

狂犬病予防注射済
2025年度
■■■■■■
山口県■■市町

犬鑑札
山口県
■■市町

※首輪に装着しましょう

狂犬病を防ぐために

飼い主が守るべき3つの義務があります

飼い犬の
自治体への
登録

狂犬病
予防注射の
接種

鑑札・
注射済票の
装着



※狂犬病予防法に基づいた義務であり、違反した場合は罰則の対象になります。

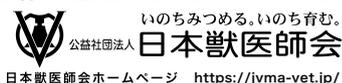
4月・5月・6月は 狂犬病予防注射月間

狂犬病は人にもうつる感染症です。
発症した場合はほぼ100パーセントが死に至り、
海外では毎年約6万人が狂犬病で亡くなっています。



マイクロチップを装着した犬は、環境省への登録が義務づけられています。

獣医師会は狂犬病予防注射の推進に協力しています。



詳しい情報は、厚生労働省ホームページ
「狂犬病について」をご覧ください。

狂犬病 厚生労働省

検索



お問い合わせは
最寄りの保健所、
市町村の担当窓口まで。